

由良川 荒河排水機場・弘法川救急排水ポンプ設備の効果 (平成29年10月22日～24日 台風21号出水)

■荒河排水機場・弘法川救急排水ポンプ設備では、平成29年10月22日14時～24日9時にかけて、内水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量183.6万m³の内水**を排出しました。

■荒河排水機場・弘法川救急排水ポンプ設備の位置・全景



■荒河排水機場の役割

荒河排水機場は、昭和56年に運用開始後、平成6年に増設し、最大10m³/sの能力としています。平成28年9月には3m³/sの増設を行った。弘法川流域に降った雨を由良川へ排水することにより、福知山盆地の内水被害を軽減する役割を担っている。

■弘法川救急排水ポンプ設備の役割

弘法川救急排水ポンプ設備は、昭和55年に運用開始した。弘法川流域に降った雨を由良川へ排水することにより、福知山盆地の内水被害を軽減する役割を担っている。現在、常設型のポンプ9m³/sを新設工事中です。

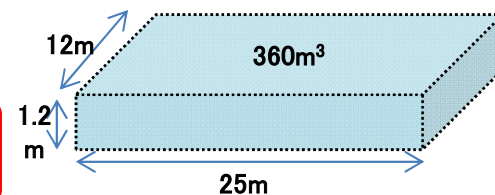
■ポンプ能力

	ポンプ能力	25mプールで換算した場合の能力
荒河排水機場	最大 13 m ³ /s(5.0m ³ /s × 2基) (1.5m ³ /s × 2基)	約28秒で25 m プールの水すべて排出できる
弘法川救急排水ポンプ設備	最大 5 m ³ /s(1.25m ³ /s × 4基)	約72秒で25 m プールの水すべて排出できる

■効果

排水量 **183.6万m³** ≡ **25 mプール**
≡ **5,100杯分**

浸水被害を防ぐため、排水量183.6万m³の内水を由良川本川に排出



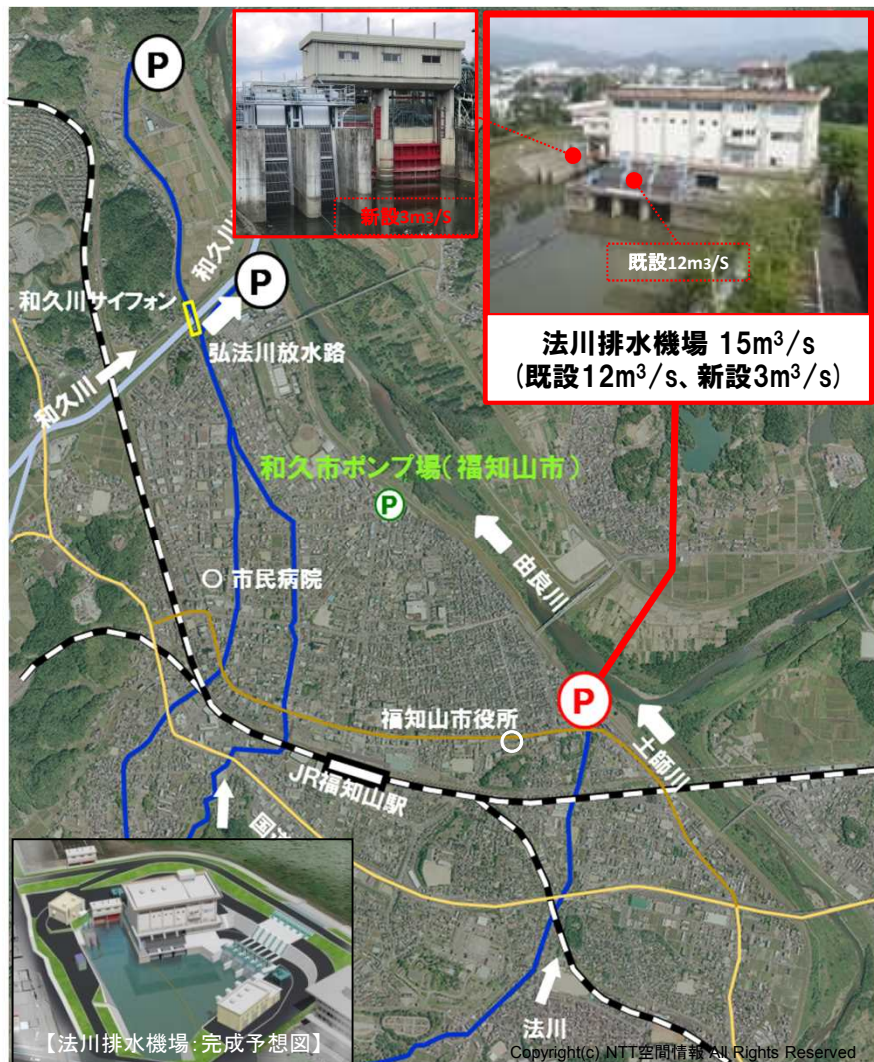
そのほかに排水ポンプ車により国が4.9万m³、府が1万m³の内水を由良川本川に排出しました。

●雨量情報 10月21日～23日にかけて福知山観測所において累加雨量200mm、時間最大16mmの雨を観測しました。

由良川 法川排水機場の効果（平成29年10月22日～24日 台風21号出水）

■法川排水機場では、平成29年10月22日16時～24日6時にかけて、内水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、総排水量53.4万m³の内水を排出しました。

■法川排水機場の位置・全景



■法川排水機場の役割

法川排水機場は、昭和54年に運用開始し、平成6年に2号ポンプ、平成12年に3号ポンプ、平成29年3月に4号、5号ポンプを増設しています。法川流域に降った雨を由良川へ排水することにより、福知山盆地の内水被害を軽減する役割を担っています。

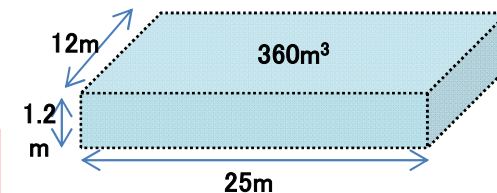
■ポンプ能力

ポンプ能力	25mプールで換算した場合の能力
最大 15 m ³ /s (4.0m ³ /s × 3 基) (1.5m ³ /s × 2 基)	約24秒で25 m プールの水すべて排出できる

■効果

排水量 53.4万m³ = 25 mプール 1,483杯分

浸水被害を防ぐため、排水量54.3万m³の内水を由良川本川に排出しました。



●雨量情報

10月21日～23日にかけて福知山観測所において累加雨量200mm、時間最大16mmの雨を観測しました。